ECOひいき

ECOLOGICAL INFORMATION

かわいがって下さい

奥只見丸山スキー場
（撮影：昆 喜知郎）

一般社団法人 新潟県環境衛生中央研究所　情報誌

第49号
2023.1発行

もくじ CONTENTS

p2—p3 食品衛生セミナーを開催しました

p4—p5 特集　呼吸用保護具フィットテストについて

p6 創業50周年 今昔物語

p7 こんなこともしています（環境デー／講師派遣／同好会活動）

p8 情報掲示板 こんなことしています

赤坂山公園（撮影：昆 喜知郎）

令和4年度

食品衛生セミナーを開催しました

試験検査部　食品検査課　山崎 久美子

毎回ご好評をいただいております食品衛生セミナーですが、今年度は11月29日にホテルニューオータニ長岡NCホールにて開催し、大勢の方々にご参加いただきました。このセミナーは公益事業の一環として、新潟県食品衛生協会や中越地区の食品衛生協会6団体との共同主催で開催しております。昨年および一昨年は新型コロナウイルス感染症対策として開催を控えておりましたが、今回は3年ぶりの開催となりました。今年度も食品関連事業者の方々を対象とし、農林水産物や食品を含めた国内外の社会・経済情勢などについて最新の情報を提供するとともに、情報交換の場としてご利用いただきました。

今回は、農林水産省 輸出･国際局審議官 道野英司 様、参議院議員 丸川珠代 様を講師としてお招きし、道野様からは「食品輸出と輸出先国の規制への対応」について、丸川様からは「時局講演」として気候変動問題についてお話しいただきました。

食品輸出と輸出先国の規制への対応

農林水産省 輸出・国際局審議官　道野 英司 様

日本の農林水産物および食品の市場規模は、今後の人口減少や高齢化による急速な需要減少によって、年々縮小すると見込まれています。それに対して、海外の農産物市場は世界の人口増加に伴い拡大しており、日本からの輸出強化を進め、成長する海外の食市場を獲得していくことが重要とされています。そのためには、放射性物質や食品添加物などの規制への対応や、賞味期限の延長など、輸出先国で求められる品質に応える必要があります。今回の講演では、規制対応の方向性や新たな動き、輸出拡大に向けた食品事業者への支援等について詳しくお話しいただきました。

時局講演

※オンライン講演

参議院議員　丸川 珠代 様

丸川先生は東京大学経済学部を卒業後、テレビ朝日のアナウンサーを経て、平成19年から参議院議員を務められています。この間、数々の役職を歴任され、平成27年には環境大臣、平成28年からは東京オリンピック・パラリンピック担当大臣として、一昨年のオリンピック開催に尽力されました。今回の講演では、環境大臣時代から取り組んでおられる地球温暖化による気候変動対策についてお話しいただき、喫緊の課題である世界の気温上昇や、脱炭素が世界的な潮流になっている中での日本の再生可能エネルギーの主力電源化などについて解説していただきました。緊急の国会用務のため、国会議員会館と会場を結んでのオンライン講演となりましたが、熱心に語る丸川先生のお話に会場の方々も大変興味深く聞き入っていました。

コンサート

今回は講演後にクラリネットとピアノによるコンサートが行われ、クラリネットを辻 笑子さん、ピアノを宇野 真以さんが演奏されました。お二人とも国内外のコンクールで数多くの受賞をされ、現在はソロやオーケストラとの共演などで活躍されています。

どこかで耳にしたことのある親しみやすい曲を中心に演奏していただきましたが、素晴らしい演奏に会場から大きな拍手が送られていました。

近年、食や環境を取り巻く情勢は目まぐるしく変化していますが、当研究所は確かな検査と迅速な対応、そして今回のセミナーのような情報提供を通じて、より地域の皆様や社会に貢献できるよう努めてまいります。この度のセミナー開催に際し、ご協力いただきました各団体および関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

特集 呼吸用保護具フィットテストについて

環境部　環境保全課　増間　仁

「溶接ヒューム」について、労働者に神経障害等の健康障害を及ぼすおそれがあることが明らかになったことから、労働安全衛生法施行令・特定化学物質障害予防規則等が改正され、令和３年４月１日に施行されました。

この改正により、金属アーク溶接等作業を継続して行う屋内作業場の場合、個人ばく露測定による溶接ヒュームの濃度測定が義務付けられ、その測定結果に応じて、作業場ごとに有効な呼吸用保護具（マスク）の選択が行われています。選択されたマスクは、作業者の顔に密着（フィット）することで溶接ヒュームの吸い込みを防止できるものであり、そのフィット性を評価するフィットテストが令和５年４月１日から義務付けられます。

フィットテストの方法について

定量的フィットテストのイメージ

定性的フィットテストのイメージ

フィットテストには、定量的フィットテストと定性的フィットテストがあります。定量的フィットテストは、マスク接顔部からの漏れ量をテスターを用いて数値として計測することにより、合格・不合格を判定します。定性的フィットテストは、被験者が感覚（味覚、嗅覚など）によって検知できる試験物質を用いて、マスクを着用しているときに試験物質を感じるか否かを調べることにより、判定を行います。半面形面体・使い捨て式マスクの場合は、定量的フィットテスト及び定性的フィットテストのいずれを使用しても構いませんが、全面形面体の場合は、定量的フィットテストを用いなければなりません。

フィットテストの対象になるマスクの例を挙げます。ルーズフィット型と呼ばれるマスク、フード及びフェイスシールドについては顔面との密着が要求されていないので、これらについてはフィットテストを行う対象にはなっていません。

フィットテスト対象マスクの例

防じんマスク

取り替え式・全面形面体

取り替え式・半面形面体

使い捨て式

電動ファン付き呼吸用保護具

全面形面体

半面形面体

フィットテストの目的

フィットテストの目的は、使用させている（又は使用させようとしている）マスクの製品モデル及びサイズが着用者に適したものであるか否かを調べることです。テストの結果、合格が得られた場合はそのマスクを着用すればよいことになります。不合格になった場合は、異なるモデル、サイズ、もしくは異なるメーカーのマスクまで枠を広げ、合格するマスクを事業者の責任で探さなければなりません。

フィットテストは１年以内ごとに１回、定期的に実施することが定められていますが、「なぜ毎年テストをしなければいけないのか？」という不満が出てくると思われます。これは、時間の経過とともに顔が変化していくので、定期的にテストしなければマスクのフィット性が担保できないからです。また、著しい体重の変化、顔の手術、歯の変化等があった場合には、定期のテストとは別に実施しなければなりません。

当所では定量的フィットテストに対応したテスターを準備し、ご依頼への受付を開始しております。お気軽にお問合せ下さい。

環中研Gallery

卯 2023年

㈱中越興業 専務取締役
西山 功 様

自作画の年賀状

寅 2022年

丑 2021年

日本画

『庭のかたすみで』
柏崎食品衛生協会 常任理事　長谷川利枝 様

油彩画

『夢幻：雪の夜』
環中研　郷 理事長

創業50周年
今昔物語

専務理事　金子 賢司

私は1978年３月に入所しました。当所の創業が1972年４月で、研究所の大島への移転が1977年ですので、移転後まもなくの入所となります。大島の事業所は旧大島小学校の一部を借り、改装して３教室分を試験室として使っていました。役職員も全員で15～16名と記憶しています。暖房は大きな灯油ストーブがありましたが、入所当時は冷房もない状況でした。当然パソコン等もないため報告書はもとより、書類すべて手書きであり書類作成に膨大な時間を要しました。

分析機器も原子吸光が１台とガスクロマトグラフが数台、分光光度計が１台あるだけで、DOの測定はすべて滴定という手作業で実施をしていました。試料の大部分は工場排水と飲料水で、大気や作業環境測定等新規分野では手探りで測定を実施する状況でした。

創業50周年記念誌にある通り雪の多い年は屋根の雪下ろしも行いました。

その後現在の新産に事業所を移設新設し、増設を繰り返すとともに職員及び検査機器・情報処理機器も拡充をはかりました。理化学分野では質量分析計の導入により分析対象物質の類似物質との識別が精度よく行え、検出感度も飛躍的に向上し、極微量物質の分析が可能となりました。生物分野ではPCRの導入によりウィルス検査が可能となりました。またISOやGLP等の精度管理システムの導入により検査精度は格段に向上しました。

今後も新しい技術やシステムを取り入れ、お客様の要望に応えて行きたいと思います。

こんなこともしています

ECOひいき
ECOLOGICAL INFORMATION
2023.1発行 第49号

環境デー

総務部長　高橋 良政

このコロナ禍で、職員全員が集まり何かをする機会がめっきり減りました。当所では２か月に１回程度、朝、環境デーと称して清掃活動を行っております。今は、これが唯一の職員全員が集まる機会です。

職員全員が集まり周辺をきれいにするのは、気持ちの良いものです。今後も、お客様や地域の方々にも気持ちよく感じていただけるよう、この活動を続けていきたいと思います。

講師派遣

食品衛生及び環境分野に関する各種研修会・講習会・コンサルタント等の講師派遣も行っております。

何か気になる点等がございましたら、ご相談ください。

同好会活動

当所には7同好会があり、
職員の良き交流の場となっています。

❶ 音芸
❷ フットサル
❸ ゴルフ
❹ 卓球
❺ 食文化
❻ 次世代農業
❼ テーブルゲーム

＼音芸同好会の一コマ／

ECOひいき 情報掲示板

こんなことしています

当研究所職員の顔を覚えてもらえるよう、毎回違うスタッフが自分の業務を紹介していくコーナーです。

総務部 総務管理課
荒木 伶実（入社4年目）

私は受付事務、報告書等の発送業務、経理事務などを行っております。

受付事務では、お客様からの検査のご依頼を各担当部署におつなぎするなど、当所に来られた方への対応をしております。

報告書の発送業務では、お客様がご依頼された検査の結果報告書をしっかりお届けするために検査内容と報告書に相違がないか等の確認をしております。

お客様が何を必要とされているかを考え正確な業務を行えるよう、努めてまいります。

総務部 文書法務課
丸山 陽真里（入社1年目）

私は主に飲料水の受付を担当しております。私の所属する文書法務課では検体の受付、データ入力、請求書の発行を行っています。受付や入力の際には、記入漏れやミスが無いようチェックしながら受付をしています。また、検査が滞りなく進むようデータ入力時には細心の注意を払っています。請求ではお客様のシステムにも対応できるよう日々努力しております。安心して業務をまかせていただけるよう努めてまいります。

明日の環境を考える

業務内容

- 食品衛生法に基づく食品検査
- 工場・事業所排水の水質検査
- 水道水・飲料水等の水質検査
- 廃棄物の分析
- ばい煙の測定
- その他各種情報の提供・調査研究等
- 衛生診断、相談、研修会等
- 公共用水域・地下水等の水質検査
- 浄化槽法定検査
- 作業環境測定
- 騒音・振動測定
- 物質同定・異物検査等の特殊分析
- 放射性物質の測定
- 土壌汚染対策法に基づく調査分析
- 温泉法に基づく温泉成分分析
- 簡易専用水道の管理の検査

一般社団法人 **新潟県環境衛生中央研究所**

本　　所　〒940-2127　長岡市新産2丁目12番地7
TEL 0258(46)7151　FAX 0258(46)9851

新潟事務所　〒950-0965　新潟市中央区新光町7番地2
TEL/FAX 025(283)7773　フリーアクセス 0120-940-030

Eメール：chuken@nehcl.or.jp　URL：http://www.nehcl.or.jp/

編集ノート

おかげさまで今年度、創業50周年を迎えることが出来ました。
私が入社した頃の一番最初の仕事は、請求書が電子化されるという事で、顧客マスタ入力でした。手書きからデジタルの時代へ移行し、今では電子決済やポイントでの支払いが出来るようになり、あの頃からは想像もつかない時代となりました。

発行責任者　郷 周一　　編集委員　遠藤奈美子、塩田直也、海老澤美紀、丸山陽真里